事業所名	BRIDGE2	支援プログラム

法人（事業所）理念	「ダンデライオンの根っこ」花見川・幕張エリアを日本で一番子育てのしやすい場所にする。
支援方針	○子どもの発達段階に合わせたアプローチを行う。 一人ひとりの発達段階に合わせたアクティビティを用意し、適切な時期に適切な療育を行います。 ○子どもの意欲を引き出す。 常に「やりたい」「楽しい」という気持ちが、子ども自ら取り組みたいと思える源と考えながら、子どもたちと向き合います。 ○子ども同士の関係づくりを重視する。 子どもたちは社会的関係性の中で成長するため、自発的に子どもたち同士が関係を築けるような環境を作ります。 ○創造的な療育を行う。 一人一人異なる子どもたちの特性に対応するために、自らの専門性だけでなく、様々な療育手法を検討し、臨機応変かつ柔軟な思考で療育を行います。

営業時間	9 時 45 分から 16 時 30 分まで	送迎実施の有無	あり（○） なし

	支 援 内 容
健康・生活	○健康状態の把握・維持・改善 健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。 ○基本的生活スキルの獲得 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。 ○構造化等による環境調整 生活の中で、遊びを通し学習できるよう環境を整える。障害の特性に配慮し、時間や空間を本人に分かりやすく構造化する。
	[具体的支援] ・ご利用前に保護者様や通園先のご協力のもと、お子様の健康状況を把握します。 ・生活内での基本的動作（靴の着脱、手洗い・うがい・排泄等）等をはじめ、日常生活にて必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作の改善および習得、筋力の維持・強化を図ります。 ・着替えや身支度等の身辺処理について、お子さんひとりひとりの年齢や状況に応じ目標を確認します。声掛けで自分のするべき行為に気づくことや協力動作を引き出し増やすこと、準備片付けも含めた自立に向ける等の取り組みを行います。 ・大人の声掛けや促し、自分で気づき取り組むなど、達成目標に応じた対応（声掛け、視覚的な掲示、構造化等）を行います。
運動・感覚	○姿勢と運動・動作の向上 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善及び習得できるよう支援する。 ○保有する感覚の活用 保有する視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるよう、遊び等を通して支援する。 ○感覚の補助及び代行手段の活用 必要に応じ眼鏡や補聴器等の各種の補助機器を活用できるよう支援する。 ○感覚の特性（過敏や鈍麻）への対応 感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。
	[具体的支援] ・歩く、走る、くぐる、跳ぶ、のぼる等の日常生活に必要な動作の基本となる動きを楽しみながら経験する中で、身体の土台づくりを行います。 ・手を使った活動を楽しみながら経験する中で、生活動作の基本や身体の土台づくりを行います。 ・活動見本を見て運動模倣を経験し、力の加減やいくつかの運動動作を同時に行うなど調整する経験や習得を目指します。 ・視覚、聴覚、固有感覚などを保時する感覚を統合的に経験・活用することで、身体の機能だけではなく集中する力、持続する力、コミュニケーションの能力も繋げます。 ・個別・集団活動の中で、椅子や机を用いて支援を行い正しい姿勢の習得を目指します。－絵本の読み聞かせやお子さま一人ひとりが集中できるツールを用いて自然と［座る］が行えるように支援します。 ・お子さんの状況に合わせた運動あそびの中で意識して身体を使うこと（粗大運動）を通し、視覚・聴覚・触覚・前庭覚・固有覚を統合的に活用できるように支援し、姿勢保持や力加減、バランス感覚などの向上を図ります。 ・持っている視覚、聴覚、触覚などの感覚を活かしつつ、必要に応じ眼鏡、補聴器などの補助器具を活用し支援します。 ・感覚や認知の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ、感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行います。
	○感覚や認知の活用 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して必要な情報を収集し、認知機能の発達を促す支援を行う。 ○知覚から行動への認知過程の発達 環境から情報を取得し、行動につなげるという一連の認知過程の発達を支援する。 ○時間・時間、数等の概念形成の習得 物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるよう支援する。 ○認知の偏りへの対応 認知の特性を踏まえ、自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援し、認知の偏り等の個々の特性に配慮する。また、こだわりに対する支援を行う。 ○行動障害への予防及び対応 感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防、及び適切な行動への対応の支援を行う。

本人支援	認知・行動	[具体的支援] ・療育技法「太田ステージ」に基づき、検査でお子さんの発達段階をつかみ、それにあわせた課題に取り組むことでお子さんの成長を促します。 ・ABA（応用行動分析）に基づき、困った行動を減らし、良い行動を増やす支援アプローチを行います。 ・障害特性に応じた視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用し必要な情報を収集しやすいよう、色、音、絵、写真、道具を使い認知機能の発達を促す支援を行います。 ・活動の中で情報を理解しやすいように視覚化（写真、カード等）し、自身で理解できる情報を適切に処理し、自ら選択・行動につなげられるよう支援します。 ・活動プログラムを構造化し、見通しを持ち、安心し落ち着いて自発的に行動できるように環境設定をします。 ・集団遊びでは、言葉と視覚的に説明することでルール理解を促し、安心して活動に取り組めるように支援します。さらに、「できた！」という成功体験の積み重ねおよび丁寧に褒めることで自己肯定感を育み、「またやりたい！」「少し難しそうだけどやってみよう！」という意欲の向上を図ります。 ・活動参加は「見る参加」「部分的参加」「大人と一緒に参加」も肯定的にとらえ、スモールステップにて取り組みを促します。 ・本人の発達および保護者様のご要望により、理学療法士および作業療法士による個別指導を行います。[からだの教室]
	言語 コミュニケーション	○言語の形成と活用 具体的な事物や体験と言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、体系的な言語を身につけることができるよう支援する。 ○言語の受容と表出 話し言葉や各種の文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出することができるよう支援を行う。 ○コミュニケーションの基礎的能力の向上 障害の種別や程度、興味関心等に応じて、言葉によるコミュニケーションだけでなく、表情や身振り、各種の機器等を用いて意思のやりとりが行えるようにするなど、コミュニケーションに必要な基礎的な能力を身につけることができるよう支援する。 ○指差し、身振り、サイン等の活用 指差し、身振り、サイン等を用いて、環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 ○コミュニケーション機器の活用 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。 ○読み書き能力の向上
		[具体的支援] ・人に伝えようとする意欲を大切にし、伝わったという実感が持てるようにします。子どもの要求と共に拒否の表現も受けとめ、より良い表現につなげます。 ・言語、非言語（発声、身振り等）を大人が受け止め応答することで、伝わった経験を増やします。 ・不適切な表現についてもより良い表現方法の見本を示し、出来た時には受け止め褒めることで望ましくない言動の減少に繋げます。 ・活動の中に相手を意識することや、感情の言語化、表現の仕方を伝え個々に応じた表出の場面をつくります。 ・表出を促す場面は、自由遊びを含む全てのプログラム場面で想定されており、その都度、望ましくない言動をそのままにせず、その場で望ましい言動を伝え、促し、お互いに心地よいコミュニケーションが取れるよう、指導員が介入します。 ・本人の発達および保護者様のご要望により、言語聴覚士による個別指導を行います。[ことばの教室]
	人間関係社会性	○アタッチメント（愛着行動）の形成 子どもが基本的な信頼感を持つことができるように、環境に対する安心感・信頼感、人に対する信頼感、自分に対する信頼感を育む支援を行う。 ○模倣行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ○感覚・運動遊びから象徴遊びへの支援 感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びから、見立て遊びやごっこ遊び等の象徴遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ○一人遊びから協同遊びへの支援 周囲に子どもがいても無関心である一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。 ○自己の理解とコントロールのための支援 大人を介在して自分のできること、できないことなど、自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動の調整ができるように支援する。 ○仲間づくりと集団への参加 集団に参加するための手順やルールを理解し、子どもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるよう支援するとともに、共に活動することを通じて、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるよう支援する。
		・安心できる大人との関係性を作ることを基盤とし、そこから周りの状況にも気づき周囲の人や物への興味、関心を広げます。 ・集まりや活動の中で大人が表現の方法や相手との関わり方の見本を示すことで行動を促し、同年代の子どもとのやり取りをする経験を増やします。 ・特性を理解し、ひとりひとりに合わせた声掛け、行動への支援を行う中で気持ちや感情の調整ができるように支援します。 ・あつまりや集団遊びの中で、ルールや順番の理解など、周りの状況に気づき、場に合わせた行動ができるように支援します。 ・場や物の共有をする中で対大人・対お友だちとやり取りする機会を設定し、人間関係や社会性の基礎(ルール)となる経験の積み重ねを行います。 ・“一人で”“相手（大人、子ども）と一緒に行う”“集団で取り組む”ことを活動の中で取り入れ、社会性、対人関係の芽生え、育ちを図ります。
家族支援	保護者の困り事や悩み事の軽減 療育場面の参観および、その場での助言、援助（子育てサポート）個別面談（家族支援） ペアレントトレーニング	移行支援	日常的な連携に加え、関わり方についての情報共有放課後等デイサービスとの連携

地域支援・地域連携	関係機関との情報共有連携会議の実施	職員の質の向上	事業所内研修 外部研修受講支援
主な行事等	避難訓練 放課後等デイサービス説明会 特別プログラム（不定期開催）		